

見云此人者天津日高軒尊之御子、虚空津日高矣、

〔日本書紀通證七〕今按天津日高者、天子之稱、虛津日高者、太子之稱、

〔令義解儀制〕凡自天子至車駕中皆是書記所用、至風俗所稱、別不依文字、假如中須明樂美御德之類也、

〔古事記傳十六〕此假字は、異國に示さむ爲に書れたるものと見えて、好字の限りを集めたるは、
必に御字など、清濁さへかなはず、此字に據て、コを濁るはひが事なり、

〔曲江集七〕勅日本國王書

勅日本國王、主明樂美御德下

〔類聚名義抄玉〕天皇スベラキ

〔八雲御抄三下〕帝王すべらきすべらきみこ

〔萬葉集十五〕到壹岐島雪連宅滿遇鬼病死去之時作歌

須賣呂伎能等保能朝廷等、可良國爾和多流和我世波下

〔萬葉集十八〕賀陸奥國出金詔書歌

葦原能美豆保國乎、安麻久太利之良志賣之家流、須賣呂伎能神乃美許等能下

〔萬葉集二十〕天平勝寶七歲乙未二月相替遣筑紫諸國防人等歌

阿良例布理可志麻能、可美乎伊能利都々、須米良美久佐爾和例波伎爾之乎

右那賀郡陸上丁大舍人部千文

〔萬葉集二十〕喻族歌

比左加多能安麻能、刀比良伎中加久佐波奴安加吉許己呂乎、須賣良弊爾伎波米都久之氏下

右緣淡海真人三船讒言出雲守大伴古慈悲宿禰解任、是以家持作此歌也、